

この度、あしぎん景気動向調査(第 127 回あしぎん景況調査、第 66 回県内産業景気動向調査)の結果がまとまりましたので、別紙の通り発表させていただきます。今回のポイント及び概要は下記の通りです。

記

1. あしぎん景況調査のポイント

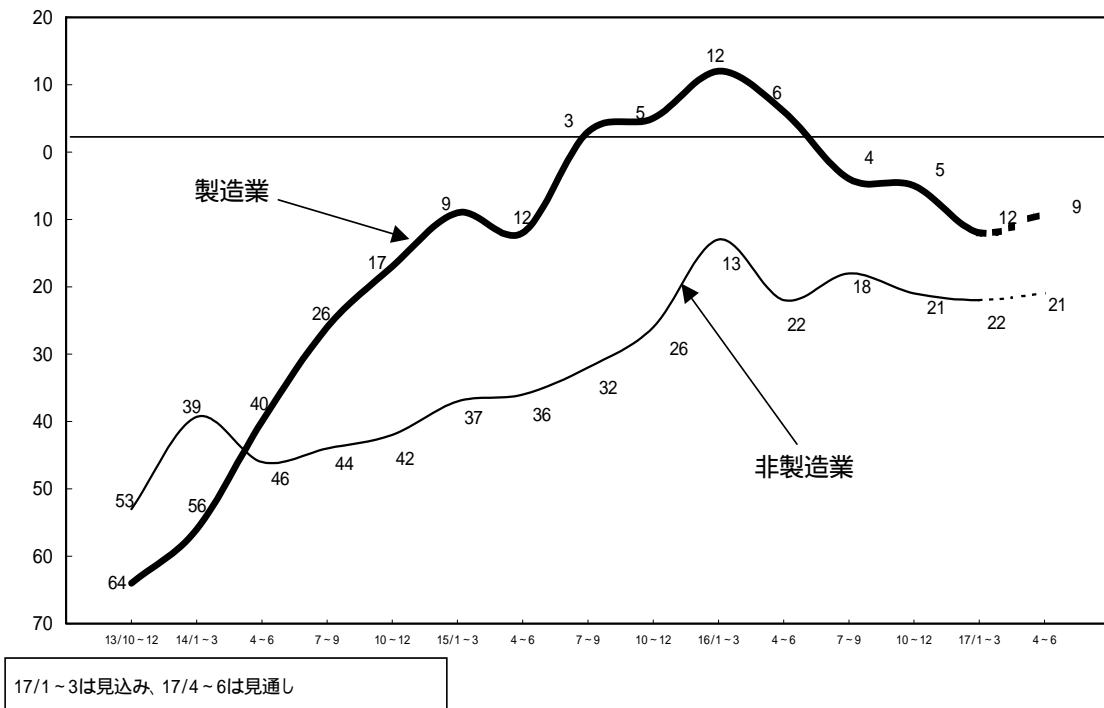
企業の景況感は、踊り場的な状況にある。

今期(17年1~3月期)の業況判断D.I.値は、製造業が12、非製造業が22となった。前期(16年10~12月期)に比べ、製造業は7ポイント、非製造業は1ポイントそれぞれ悪化した。

来期(17年4~6月期)は今期に比べ、製造業が3ポイント、非製造業が1ポイントそれぞれ改善する見通しである。

製造業では、業況判断D.I.値が生産の減少などを背景に3四半期連続で悪化企業超となるなど足元で弱い動きがみられ、踊り場的な状況となっている。一方、非製造業では、個人消費など需要面に回復の力強さがみられず、概ね横ばいとなっている。

業況判断D.I.値



本件に関するお問い合わせ先 : 融資本部 伊藤 028-626-0443

2. 県内産業景気動向調査のポイント

企業の景況感は、踊り場的な状況にある。

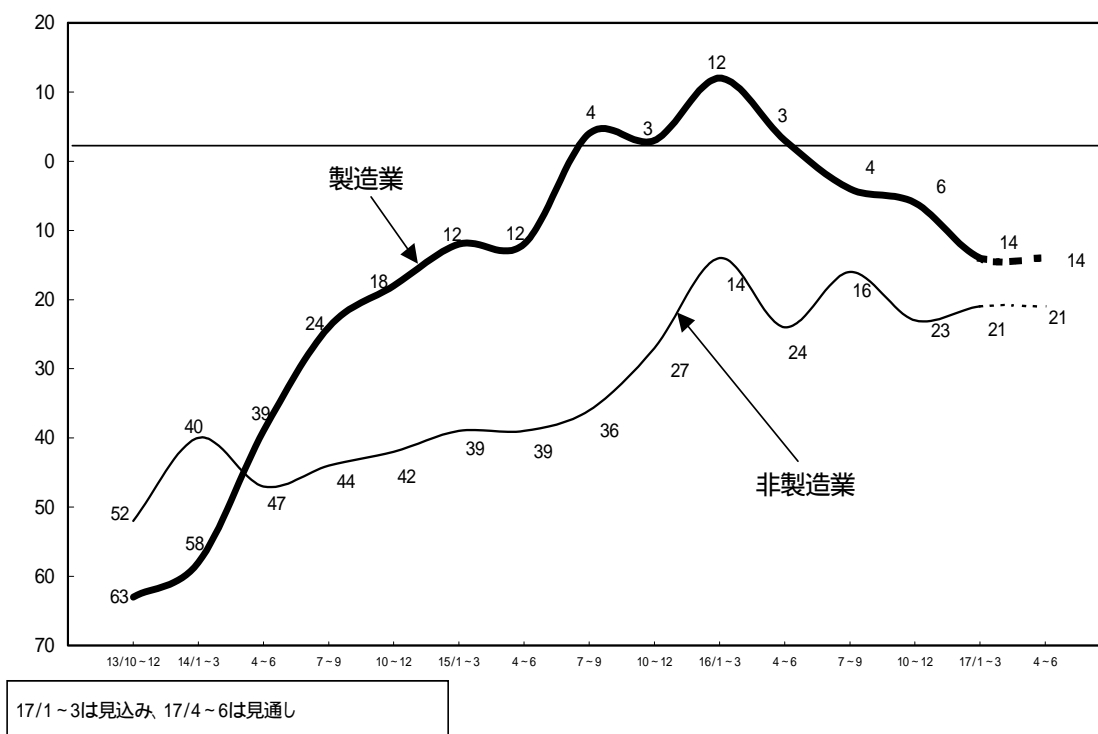
今期（17年1～3月期）の業況判断D.I.値は、製造業が14、非製造業が21となった。前期（16年10～12月期）に比べ、製造業は8ポイント悪化したものの、非製造業は2ポイント改善した。

来期（17年4～6月期）は、製造業、非製造業ともに今期と同ポイントとなる見通しであり、踊り場の状況が続くとみられる。

製造業では、生産の減少や原材料価格の高止まりなどを背景に足元で弱い動きとなっている。

一方、非製造業では、緩やかな回復基調を維持しているものの、個人消費など需要面に力強さがみられず、足踏み状態となっている。

業況判断D.I.値



3. 概要

(1) あしぎん景況調査

製造業

ア) 業況

業況判断D.I.値の今期見込み(17年1～3月期)は前期実績を7ポイント下回った。業種別にみると、窯業・土石、繊維品など4業種が改善したものの、精密機械、輸送用機械など7業種が悪化した。

イ) 生産

生産・売上D.I.値の今期見込みは4と前期実績を13ポイント下回った。業種別にみると、化学品、繊維品など3業種が改善したものの、精密機械、一般機械など8業種が悪化した。

ウ) 経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは14と前期実績を4ポイント下回った。業種別にみると、繊維品、木材・木製品など4業種が改善したものの、金属製品、電気機械など6業種が悪化した。

エ) 設備投資

実施企業割合の今期見込みは69%と前期実績を2ポイント上回った。また、投資額D.I.値の今期見込みは34と前期実績を7ポイント上回った。

オ) 雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは2と前期実績を1ポイント下回った。業種別にみると、鉄鋼・非鉄、窯業・土石、一般機械など4業種が改善したものの、木材・木製品、電気機械など6業種が悪化した。

非製造業

ア) 業況

業況判断D.I.値の今期見込みは22と前期実績を1ポイント下回った。業種別にみると、小売、建設が改善したものの、卸売、運輸、サービスは悪化した。

イ) 売上

生産・売上D.I.値の今期見込みは11と前期実績を5ポイント下回った。業種別にみると、小売が改善したものの、運輸、サービス、建設、卸売が悪化した。

ウ) 経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは17と前期実績を5ポイント下回った。業種別にみると、建設、運輸が改善したものの、サービス、卸売、小売は悪化した。

エ) 設備投資

実施企業割合の今期見込みは51%と前期実績を4ポイント下回った。また、投資額D.I.値の今期見込みは45と前期実績を3ポイント下回った。

オ) 雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは7と前期実績を4ポイント上回った。業種別にみると、サービスは悪化したものの、運輸、卸売、小売は改善した。

(2) 県内産業景気動向調査

製造業

ア) 業況

業況判断D.I.値の今期見込み(17年1～3月期)は前期実績を8ポイント下回った。業種別にみると、飲・食料品、窯業・土石など3業種が改善したものの、精密機械、輸送用機械など7業種が悪化した。

イ) 生産

生産・売上D.I.値の今期見込みは9と前期実績を20ポイント下回った。業種別にみると、繊維品が改善したものの、精密機械、一般機械など10業種が悪化した。

ウ) 経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは20と前期実績を9ポイント下回った。業種別にみると、木材・木製品、繊維品など4業種が改善したものの、精密機械、金属製品など7業種が悪化した。

エ) 設備投資

実施企業割合の今期見込みは70%と前期実績を2ポイント上回った。また、投資額D.I.値の今期見込みは30と前期実績を3ポイント上回った。

オ) 雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは3と前期実績を3ポイント下回った。業種別にみると、鉄鋼・非鉄、精密機械、一般機械の3業種が改善したものの、木材・木製品、化学品など7業種が悪化した。

非製造業

ア) 業況

業況判断D.I.値の今期見込みは21と前期実績を2ポイント上回った。業種別にみると、卸売、サービスが悪化したものの、小売、建設は改善した。

イ) 売上

生産・売上D.I.値の今期見込みは11と前期実績を3ポイント下回った。業種別にみると、小売が改善したものの、サービス、卸売、建設が悪化した。

ウ) 経常利益

前年比増減D.I.値の今期見込みは21と前期実績を6ポイント下回った。業種別にみると、建設、運輸が改善したものの、サービス、卸売は悪化した。

エ) 設備投資

実施企業割合の今期見込みは56%と前期実績を2ポイント下回った。また、投資額D.I.値の今期見込みは43と前期実績を2ポイント下回った。

オ) 雇用

前年比増減D.I.値の今期見込みは6と前期実績を2ポイント上回った。業種別にみると、建設、サービスは悪化したものの、運輸、卸売、小売は改善した。

4. 特別質問「2005年度の経済動向」のポイント

(1) 現在(平成17年2月)の自社の属する地域・業界の景気

- ・1年前と比較して、「悪化した」(「悪くなった」+「やや悪くなった」)と回答した企業(42.7%)が「好転した」(「良くなった」+「やや良くなった」)と回答した企業(16.9%)を大きく上回り、半数近くの企業が景気は悪化したと捉えている。特に非製造業や中小企業において厳しい見方をしている。

(2) 平成17年度の自社の属する地域・業界の景気

- ・平成16年度と比較して、「変わらない」と回答した企業(49.8%)が半数を占めたことから、多くの企業が来年度の景気も今年度と変わらないとみているようである。

(3) 平成17年度の日本経済

- ・平成16年度と比較して、「変わらない」と回答した企業(48.5%)が半数近くを占めたことから、地域経済と同様に多くの企業が来年度の景気も今年度と変わらないとみているようである。

(4) 自社における今後の懸念材料

- ・「原材料価格の動向」(46.8%)が最も多く、次いで「デフレ不況による製品価格の下落」(26.8%)、「中国製品などの安価な輸入品との競合」(21.5%)、「製造業の海外移転による受注減」(21.2%)の順となっている。

(5) 中小企業振興策に対する要望

- ・「税負担の緩和」(52.6%)が最も多く、次いで「制度融資の拡充、信用保証協会の保証条件の緩和」(25.5%)、「公共事業の拡大」(24.6%)の順となっている。税負担の軽減や公的融資、保証の緩和に対する要望が多い。